

5 単元構想図 ○単元の目標 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

しなやかに考える子ども像	・答えが10より大きくなりそう。 ・10のまとまりをつくればできそう。 ・10のまとまりをつくと分かりやすい。	・前の学習と同じように10のまとまりをつくればできそう。 ・8はあと2で10だから、3を2と1に分ければよい。	・前の学習と同じように10のまとまりをつくればできそう。 ・10をつくるために、後ろの数を分けるとよい。 ・計算図や言葉でも計算の仕方を説明できる。	・前の学習と同じように10のまとまりをつくればできそう。 ・あといくつで10になるか考えるとよい。 ・計算図や言葉でも計算の仕方を説明できる。	・これまでの学習と同じように10のまとまりをつくればできそう。 ・今までと違って後ろの数が大きい。 ・大きい数に10のまとまりをつくと速くできそう。	・10のまとまりをつくれればどちらの方法でもできそう。 ・数が大きい方に10のまとまりをつくと速い。	・繰り上がりのあるたし算の計算も、速く正確に計算できるようになりたい。 ・計算カードを並べて、縦・横・斜めに見ると、数のきまりが見えてくる。 ・これまで学習してきたことを使って、いろいろな問題に挑戦しよう。		
	時	1 (①1組)・2	3 (②3組)	4	5	6 (②2組)	7	8～12	13
目標	・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法(加数分解)を理解する。	・前時までの学習をふまえ、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。			・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法(被加数分解)があることを知り、計算の仕方について理解を深める。		・加法の計算能力を伸ばす。	・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	
単元の構想	考え方	既習の10のまとまりをつくる計算の仕方を基に、繰り上がりのある加法計算について考える。							
	算数的活動	計算の意味や計算の仕方をブロック操作やブロック図、計算図や式で考え、言葉で説明する活動。					計算カードを使った計算練習		
	学習内容	被加数が9の場合の加数分解	被加数が8の場合の加数分解	被加数が9～5の場合の加数分解	被加数分解の計算の仕方	補充的・発展的学習			
	既習事項	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの数の構成・分解ができる。 ・和が10以内の加法計算ができる。 ・20までの数の繰り上がりや繰り下がりのない加減計算ができる。 							
評価規準	<input type="checkbox"/> 既習の加減計算や数の構成を基に、9+4などの計算の仕方を考えようとしている。 <input type="checkbox"/> 9+4などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。	<input type="checkbox"/> 被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。	<input type="checkbox"/> 加数分解による計算が確実にできる。	<input type="checkbox"/> 被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。	<input type="checkbox"/> 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算は、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。	<input type="checkbox"/> 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。	<input type="checkbox"/> 基本的な学習内容を身につけている。		

